

今の私にできること

J A たまなフレッシュミズ 伊藤 志穂里

私の家は南関町で野菜を作っています。主に夏はキュウリを市場に出荷しています。市場以外には直売所に夏野菜、秋冬野菜と多くの種類を卸しています。

農家に嫁ぐ前には看護師として働いていました。そして同級生であった主人と結婚し、その後も数年は病院に勤務しました。後々は主人の手伝いもと考えていたので退職し、退職後に三人の娘ができ、子育てと農家の手伝いでバタバタの生活を送っています。

そんな私の農家としての一日は子供の保育園の送り出しと共に野菜を車に乗せ直売所に向かうことです。

結婚が決まった時には、友人からは『農家ってどうなの？大変じゃない？』とよく言われました。私の実家は祖父母が農業をしていたこともあり、子供の頃は畑についていき、草むしりや軽トラックの荷台に乗り、山に行き、栗拾いの手伝いをしていました。私にとって農家は身近なもので農家にお嫁に行くのも抵抗はありませんでした。『まあ、大丈夫だろう』とそこまで深くは考えていませんでした。

結婚後は数年、看護師として勤務しながら休みの日はほんの少し手伝いをするくらいでした。退職後は筍掘りに山に行き、キュウリの時期には薄暗い時間から畑に向かい、日が差して暑くなるまで収穫を行います。冬は冷たい水で大根やカブを洗います。一年を通して直売所に野菜を出荷しているので常に畑を準備しながら種まき、苗植えを行っています。これといった休みはなく、仕事に追われています。

また、私には小さい子供がいるので、なかなか全部の仕事が行えていないのが現状です。本当に父、母、夫に対し朝から暗くなるまで仕事をしているので少しでも役に立ちたい、一人前になりたいと思う毎日です。

こんな半人前の私ですが、私にできる仕事があります。それはブドウ栽培です。といってもブドウの木は二本なので、そこまで収量はありません。初めて任された年は実の大きさもバラバラで形も良くありませんでした。直売所に卸しても、ブドウを主に出されている方と比べると『やっぱり違うな』と差を感じました。そこで本を見て勉強し、摘粒や剪定を行いました。年々、ブドウとしての形になってきて、育てる楽しみができました。そんなブドウを娘たちは「ブドウ狩りする！」と言いハウスに入り好きなブドウをちぎって食べています。「美味しい！！」と言って食べてくれるのが嬉しいです。

夫の手伝いと自分の仕事で子供たちと出かけることも難しいですが、子供たちはじいちゃんやお父さんと野菜の収穫に行ったりして畑で遊んでいます。農家は忙しいですが家で仕事ができるので子供の成長を近くで感じられてとても楽しいです。

私がフレッシュミズに入った経緯は、第1子を出産したときに、J Aの職員さんからの勧めもあり参加しました。参加すると同年代の方が多く子育ての先輩たちがいらっしゃいました。入ったばかりの私に気さくに声をかけてくださり、すぐにフレミズの輪に入れます。

した。活動としては、五月には講師を招いて母の日に向け写真立てやハーバリウム作成を行いました。その後は楽しいランチ会。コロナが流行する以前は、バーベキューやクリスマス会をし子供たちとカレーやケーキ作りを楽しみました。家族で仕事をしているので、なかなか家族以外の方と話すことは少ないなか、子供のことや仕事のことを相談できるとてもいい場でもあります。南関フレミズも定植時期や忙しい時期が異なり、思うように活動が行えないのが現状です。そこで、なにか活動の目標ができれば少しの時間でも集まり活動できるのではないかと思います。

南関町の催しで関所祭りがあります。そこでフレミズでも出店をしてみたいと思っています。毎日の料理の腕を活かし、各農家が出る野菜を使用し、出店料理を作りたいと考えています。

ほうれん草、大根、トマト、里芋、新米など、たくさんの秋冬野菜があります。メニューはほうれん草とトマトでピザ、秋冬野菜で豚汁、特産品でもある南関米でおにぎりなどと考えるだけでも楽しくなります。

フレミズの活動でも目標ができれば楽しくもあり、頑張れる源になります。

農家の仕事、子育てと大変なことは多いですが、今の私にできることをすこしずつ行っていきたいと思っています。